

## ロボットやAI活用 介護負担軽減しよう

津のセミナーで学ぶ

介護と生活の両立方法を考えるセミナーが十八日、県総合文化センター(津市一身田上津部田)で開かれた。県外からのオンライン

参加も含め十五人ほどが参加。ロボットや人工知能(AI)、地域の仕組みを活用し、介護の負担を軽減する方法などを学んだ。

日本福祉大(愛知県美浜町)の教授で、東京都で特別養護老人ホームを運営する尾林和子さん(六〇)西

東京市は、施設で導入している「遠隔見守りシステム」を紹介。赤外線カメラで入所者の行動を随時確認でき、何かあればすぐに職員に通知され、効率的な介護に役立っているとした。

尾林さんは「互いの顔が見える対人ベースの介護は不可欠」とした上で、排せつの予測ができるロボットなどの普及が進めば「介護する側もされる側も負担を減らせる」と強調した。

千葉市でケアマネジャーとして活動する

も介護への心構えについて講演。「介護のためにすべてを犠牲にする必要はない」と話し、一人で抱え込まずに地域包括支援センターやケアマネジャーに相談するよう助言した。

セミナーは、県内の働く女性らで構成する「働く女性のネットワーク三重」が企画。参加したケアマネジャーの

は「ロボットを活用することで、介護する側の生活も守られるようになると思う」と話した。(塩生衣菜)



遠隔見守りシステムの解説をする尾林さん(左)津市一身田上津部田の県総合文化センターで